



日本地雷処理を支援する会(ジェーマス)

JMAS活動報告

2013年12月号

各国で技術移転を行うJMAS専門家

2002年、カンボジアに残されたままの膨大な数の地雷・不発弾の災禍に苦しむ人々の窮状を知った自衛隊OBが、地雷・不発弾処理の分野の活動はその危険性、専門性から我々にしかできない活動であり、我々の責任でもあると考え、日本人の誠意と真心を具体的行動をもって示すため、JMASの設立と活動の開始を決意しました。

設立から11年、その思いは今も脈々と受け継がれ、JMASの専門家たちは現役時代に培った高い技術を現地の人々に伝えて、自立と発展に寄与しています。



ラオス・アッタプー県にて大型爆弾の信管(起爆装置)離脱を指導する中條専門家(69歳)



アンゴラ・ベンゴ州にて対人地雷除去機整備のための溶接教育を行う福専門家(60歳)



カンボジア・タケオ州にて大型爆弾の信管(起爆装置)離脱を指導する野田専門家(64歳)



カンボジア・バタンバン州にて地雷除去員を指導する今井専門家(58歳)

カンボジア

今年度のカンボジア事業は、地雷処理促進事業(IMC)が9月9日から、不発弾処理促進事業(EOD)が10月19日から開始されました。IMCはバタンバン州で、EODはコンポンチュナン州、ポーサット州、シムリアップ州及びコンポントム州の4個州で引き続き処理活動中です。

11月4日～8日の間、荒川理事長がカンボジアを訪問し、IMC現場での一連の処理状況、CMACTレーニング・センターでのEODリフレッシャー訓練状況及び中学校における危険回避教育状況を視察するとともに、JMASスタッフやCMAC隊員を激励しました。



地雷現場を視察する荒川理事長



危険回避教育ノートを配る荒川理事長



爆破現場で最終確認を行う野田専門家



CMACとの調整会議を行う地雷専門家



地雷処理機材を担いで田圃の中を移動するCMAC隊員と今井専門家



地雷原の確認を行う高木専門家

カンボジア／安全な村づくり (SVC: Safety Village Construction Project)

2013年度のSVC事業はオータッコロ村で小学校建設及び通学路整備を行い同地域の教育環境を改善するとともにサンハー村等の生活道路の改修等を行っています。オータッコロ村には小学校が無く、子供たちが「今は家の手伝いで遠い学校には行けない、ここに学校が出来たら通えるので嬉しい」と期待しています。小学校までの道のりは雨が降ると泥沼に変貌しますが、子供たちの期待に応え、安全に楽しく通える道にするためSVCチームは頑張っています。

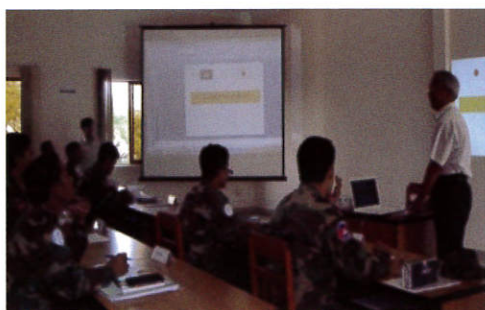


Before: 泥沼化したオータートロット村への道



After: 左の写真と同じ場所に建設中の水路橋

カンボジア／能力構築支援



昨年の講義の様子



IPMEC研修所の様子

今年も防衛省から「カンボジアにおけるPKO能力構築支援事業に係る運營業務役務」を受託し、道路構築等の施設分野における人材育成に協力することになり、12月上旬から来年3月までの間業務を行います。

ラオス

アッタプー県不発弾処理事業は、8月をもって第2次が無事終了し引き続き第3次事業が始まりました。不発弾処理機関(UXO Lao)に対する技術移譲は順調に進捗しています。



不発弾の識別を指導する中條専門家

チャンパサック県不発弾処理事業(官民連携事業)は、同じく8月をもって200haの安全化が終了し、一部では本邦企業による農地整備と生薬原料栽培が始まりました。引き続き200haの安全化を目標として処理作業を継続します。昨年は、本邦企業から農作業のため延べ3万6千名の村民が雇用され、地域経済の活性化に寄与しました。



処理予定地の確認を行う西城専門家



11月4日から9日の間、ビエンチャンにおいて「ジャパンフェスティバル2013」が開催され、JMASは写真パネル展示を行いました。ビエンチャン事務所に勤務するラオス人職員達が張り切ってJMASをPRしました。

アンゴラ地雷処理・地域復興支援

5月29日に2013年度の無償資金協力贈与契約を締結し、ベンゴ州マブバス地区における第6次事業を前年度に引き続き中断無く開始することが出来ました。本年度は、住宅建設予定地(約20ha)の地雷処理及び技術移譲を行っており、事業はほぼ計画通り進捗しています。地域復興支援にあたっては、道路等整備、給水設備管理、清掃活動及び危険回避教育等の支援を行い、生活環境を改善するとともに住民に対し地域復興について啓発・啓蒙を図っています。



活動中の対人地雷除去機



対人地雷除去機整備作業を指導中の専門家



地雷除去地に浄水場を建設中



整備されたベース沿いの道路



危険回避教育後の記念撮影



ゴミ処分用穴掘り支援



パラオERW(爆発性戦争残存物)処理専門家 牧 正彦(まき まさひこ) 55歳

プロフィール：富山県出身 1977年海上自衛隊入隊、舞鶴水中処分隊、砕氷船「しらせ」、潜水艦救難母艦「ちよだ」、第1術科学校、掃海隊群司令部、掃海艦「つしま」、潜水医学実験隊にて勤務し、2012年定年退官

2012年6月、「南ラグーンとロックアイランド」がユネスコ世界遺産に登録されたパラオで活動しています。ロックアイランドには445の無人島があり、青いサンゴ礁、マッシュルーム型の島の景観もさることながら、珊瑚や多種多様な植物・鳥、ジュゴンなどの海洋生物も生息している美しい海に囲まれた島国・観光のパラオ。全くERW(爆発性戦争残存物)とは無縁の楽園のイメージです。しかし、今から70年前の世界大戦時、日米の激戦地となり数多くのERWが未だ残っています。この海域にある旧日本海軍輸送船の積み荷(爆雷)の処理を目的として、JMAS初の海中でのERW処理活動を開始しました。私は、この事業の調査研究段階から参加できたことを光栄に思っています。



沈船の中にある爆雷

海中にある多くの爆雷にはひび割れがあり、割れた個所から爆薬の一種であるピクリン酸が流れ出て海を汚染している状況です。このピクリン酸は有害物質で、皮膚に付着すると、かゆみ・発疹・水泡を発症、少量の誤飲で発熱・倦怠感が続き完治まで1~2週間要します。また、目に入ると失明の危険性もあります。従って、海中作業時には特殊な汚染水域用潜水服を着用しなければなりません。作業現場は水深20~36m、水温28~30℃と高温のため発汗が激しく、気密性の高い潜水服着用での作業は困難を極めます。また、作業時間の制限も加わり、1日2回、月10日の潜水作業を実施するのが限度です。パラオ政府の最終作業許可を取得した10月から、現場海域の安全を確保しながら本格的に活動を開始しています。「いま、自分にできること！」を念頭におき、現地の人と共に汗を流し一歩一歩進めていきたいと思っています。



カンボジア不発弾処理専門家 今 雅人(こん まさと) 56歳

プロフィール：青森県出身、1972年陸上自衛隊少年工科学校入隊、第11武器隊、第9武器隊、第11後方支援連隊、第11師団司令部付隊(第4部勤務)、足寄弾薬支処、近文台弾薬支処にて勤務し2012年定年退官

退官後自分の自衛隊での経験を活かし活動できる仕事を探していたら丁度、JMASのことを知り希望しました。現役の時は海外で勤務することができませんでしたので、何かしらカンボジアのために手助けできればと思います。「何事も真面目に一生懸命やる」をモットーに先輩の築いてきたことを、引き続き積み上げて行こうと思っています。



今年10月に着任したばかりですが、カウンターパートのCMACのスーパーバイザー及び処理チームは皆真面目に活動に取り組んでいるので心強く、スムーズに活動しています。

ここシェムリアップは、大変治安が良く物価も安く、アンコールワット遺跡等が近くにあり観光客でにぎわっています。交通は、安いツクツク・タクシー・都市間バスなどがあり便利です。現在高級ホテルの建設ラッシュで、マーケット・土産店も数多く揃っています。また、日本人が多く住んでいて、事務所の近くにカンボジア納豆を製造販売している店があり、毎朝美味しい納豆を食べています。シェムリアップにお越しの際は、気軽にお立ち寄りください。お待ちしております。

パラオ

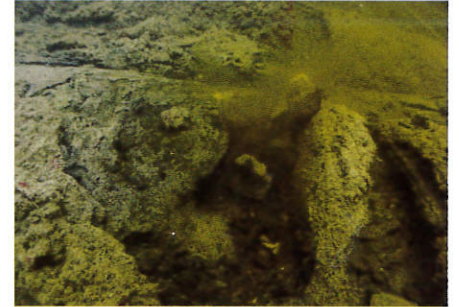
2012年12月から、JMASでは初めての事業となる海中ERW(爆発性戦争残存物)処理事業を実施しています。今期は、コロール州パラオ港外にある沈船(通称:ヘルメットレック)に残存する爆雷が処理対象です。しかし処理作業に際しては、パラオ政府等からの各種作業許可が必要となるため、事業開始当初から政府・コロール州との調整を実施し、10月9日最終の作業許可を取得しました。以降、ヘルメットレック内の現状確認及び調査、処理要領の検証を実施しています。亀裂からピクリン酸(爆薬の1種)が漏洩している爆雷もあり、海中汚染が懸念されます。海域の安全化のためにも早期の処理が必要です。9月18日~22日にかけて、荒川理事長がパラオを訪問し、事業地の視察、大統領初めパラオ政府関係者等との会談を積極的に行い事業推進を図りました。



現状確認中の専門家



サンゴに覆われた爆雷



ピクリン酸が漏洩している爆雷



副大統領(中央)表敬



パラオ大統領(右)表敬



コロール州知事(右)との会談

東京

2013年度JMAS顧問会議を開催

11月20日、JMAS事務所において2013年度顧問会議が開催されました。事業担当理事から各国事業の状況、来年度以降の事業計画・中期計画及び活動基盤特に要員の確保・ファンドレイジングについて説明後、意見交換が行われました。本会議の成果を踏まえ、今後ともJMASを取り巻く情勢の変化に対応しつつ事業展開を図って参ります。



会議で挨拶する折木会長



西元初代会長を始め18名の顧問が出席

トピックス

「JMAS定款変更」のお知らせ

6月の第11回総会において定款第12条(役員を選任)の変更について審議の結果、議案の一部を修正し、理事の選任を理事会で行なうことについて承認されましたので、東京都に定款一部変更申請を行い、9月6日付をもって東京都知事の認証を受けました。これにより定款第12条は、「理事は理事会において、監事は総会において選任する」と変更されました。

第一回「ピースアワードHIROSHIMA」を受賞

8月2日、JMASは第一回「ピースアワードHIROSHIMA」を受賞し、湯崎英彦広島県知事より表彰状と副賞が授与されました。本賞は平和貢献活動を地道に実施している個人・団体を対象としたもので、これまでのJMASの活動が評価された結果であり、皆様の御支援の賜物と感謝申し上げます。表彰式には、椋木副会長が出席し、他の2団体とともに大勢の県民の前で表彰されました。



左: 椋木副会長

「グローバルフェスタ」に参加

10月5日・6日、日比谷公園において国内最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタJapan2013」が開催され、JMASは写真パネル展示、金属探知機体験や物品販売を行いました。



「寄付型自動販売機 設置」についてご協力のお願い

JMASは今春から寄附型自動販売機の設置キャンペーンを始めました。自販機の売り上げの一部が活動資金として当会に寄附されます。

寄付型自動販売機とは

- ①設置・置き換えは無料です。
- ②寄付金の振込は自動販売機業者が行なうので手間や費用はかかりません。
- ③全国どこでも1台から設置できます。
- ④飲料メーカー指定のご相談も可能です。

設置にご協力頂ける方は、当会までご連絡いただければ詳しくご説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

なお、企業のご支援を頂いて、11月末現在34台の自動販売機が設置されております。



「人事往来」

【役職】ラオス現地代表
【新任】8/2 奈良 暁
【退任】8/1 黒川 純一

【役職】カンボジア不発弾専門家
【新任】10/19 今 雅人
【退任】10/18 古賀 美好



黒川さん



古賀さん

ご支援のお願い

正会員:(個人)年会費1万円/(法人)年会費5万円

賛助会員:1千円以上

寄附:JMASへのご寄附は寄附金控除の対象となります

<郵便振込> 00170-1-13709

<口座名> 特定非営利活動法人日本地雷処理を支援する会

ご協力のお願い

書損じハガキをお送り下さい。

認定特定非営利活動法人
日本地雷処理を支援する会
(国税庁長官認定:課法11-43号)
〒162-0845
東京都新宿区市谷本村町3-18
エムズビル5階
TEL:03-5228-7820
FAX:03-5228-7821
E-mail:jmas-hq@jmas-ngo.jp
URL:<http://www.jmas-ngo.jp>